# ファスビンダーの ケレル（1982）

QUERELLE

**メディア** 映画
**ジャンル** ドラマ
**製作国** 西ドイツ／フランス
**色彩** Color
**時間** 106分
**初公開日** 1985/05/20
**公開情報** 人力飛行機舎＝デラ

**【解説】**

Ｊ・ジュネの『ブレストの乱暴者』を、徹底した様式化で映画にした夭折の鬼才ファスビンダーの偉業。常にオレンジ色の夕景の中に、男同士の欲望を赤裸々に叩きつける作品でありながら、その直截な官能表現にはあざとさも妥協もなく、普遍的、根源的な愛を語る域に達している。港の淫売宿ラ・フェリアの主人ノノはダイスの勝負に負けた相手の尻を犯すのが趣味と、とかく噂の男。その妻リジアヌ（モロー）と愛人ロベールの関係も黙認視している。リジアヌの占いにロベールの弟が出現すると出ると、停泊中の軍船から若く逞しい水兵ケレル（デイヴィス）がアヘンの取り引きをノノに持ちかけにやって来た。彼もロベールもすぐさまお互いが長いこと離れて育った兄弟だと分かり合う。宿にはよく警官のマリオが立ち寄っては男を漁った。リジアヌに関心を持ったケレルは、彼女を賭けてノノと勝負をして負け、彼に愛されたことで男に目覚める。彼は密輸で手を組んだ男を刺し殺したが、同じように喧嘩で水兵を殺めたポーランド人水夫のジルにそのため魅かれる。しかし、思いと行動は裏腹で、彼に上官、セブロン大尉（ネロ）を襲わせたり、能動的に彼を愛すると同時に、その仕打ちも酷かった。そんなケレルを見つめ続けてきた大尉と彼は当然のように接近していくのだった……。兄との再会の挨拶はナイフでの舞踏的な格闘に代わり、それでいて声ではお互いの肉体を賛美し合うなど、異様に研ぎすまされた表現が随所に見られ、大尉のミニ・テレコ相手の艶かしい独白と、より詩的な地の独白が絶妙に響き合い、男色の特殊性を超越した美しさに貫かれた作品。妖しいコーラスの混じる音楽もまた蠱惑的であった。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー | Rainer Werner Fassbinder |
| **製作** | ディター・シドール | |
| **原作** | ジャン・ジュネ | Jean Genet |
| **脚本** | ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー | Rainer Werner Fassbinder |
| **撮影** | クサーヴァー・シュヴァルツェンベルガー | Xaver Schwarzenberger |
| **音楽** | ペール・ラーベン | Peer Raben |
| **出演** | ブラッド・デイヴィス | Brad Davis |
| | ジャンヌ・モロー | Jeanne Moreau |
| | フランコ・ネロ | Franco Nero |
| | ギュンター・カウフマン | Günther Kaufmann |
| | ハンノ・ポーシェル | Hanno Poschl |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.